



市町村アカデミー 開講30年を迎えて

市町村アカデミーは、本年10月、おかげさまで昭和62年に開講して以来、30周年を迎えることができました。

この間、15万人を超える研修生の方々が幕張の地で学び、そして、全国の自治体の第一線で活躍されておられます。市町村アカデミーの運営が、このように軌道に乗っておりますのも、関係各位の深い御理解と御支援の賜物であり、ここに改めて感謝申し上げます。

さて、30年といえは一世代に相当する年月であり、市町村を取り巻く環境も大きく変化しております。まず、地方自治の仕組みという観点では、地方分権の推進が図られ、各市町村におかれては、自立した市町村を目指した取組が進められているところでもあります。また、少子高齢化の進展により人口構造が変化するとともに、日本全体の人口も減少に転ずることとなり、地域社会において顕著にその影響が現れています。この他にもICTをはじめとする技術の革新、経済や情報のグローバル化の進展により、住民生活のみならず行政の在り方にも大きな変化がもたらされています。

このように時代の画期を迎え、地域社会の安全・安心と住民生活を守る市町村の責任はますます重くなってきており、これからの時代の市町村は中長期的視点に立って将来を的確に見据え、調和の取れた持続的な地域社会の創造を目指した運営が求められています。このため市町村におかれては、地域が直面する諸課題を的確に捉え、対応できる職員の育成が喫緊の課題となっております。

市町村アカデミーでは、開講以来、様々な課題の解決に積極的に取り組む市町村職員をはじめ、地域社会の担い手となる人材を育成するため、行政の実務に密着した研修を行っており、特に、研修内容については、諸情勢の変化に即応して、様々な視点から工夫や改善を行うなど、全力を挙げて取り組んでまいりました。

今後もこれまでの積み重ねを十分に活かしつつ、「進・学・和」の建学の精神の下で、市町村の皆様への期待に応えるべく、努力してまいりたい所存であります。関係の皆様の変わらぬ御支援、御鞭撻をお願いして、ご挨拶といたします。

市町村職員中央研修所

学長 **高部 正男**